

## 第38回 知的財産問題研究部会（IP部会）

テーマ『国際特許出願（PCT出願）の活用方法

～PCT制度を上手に活用して戦略的に特許出願するためには』

日時 2013年1月11日（金） 13:30～16:30

場所 浜松市福祉交流センター 43会議室

講師 スズキ(株) 知的財産部 企画担当部長 高橋氏

国立大学法人 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 特任准教授 神谷氏

(株)ソミック石川 技術管理部 神谷氏

今年最初のテーマは、産業のグローバル化を強力に後押しするための知財のグローバル化の象徴である国際特許出願（PCT出願）です。

今回講師を務めて頂きました高橋様は特許庁審査官を経て世界知的所有権機関（WIPO）に出向され、帰国後は特許庁審査官、そして現在スズキ株式会社 知的財産部で企画担当部長として辣腕を振るわれており、まさに官民の立場から知財制度とりわけPCTを知り尽くした方です。その影響か今回の部会はこれまでにない大人数での開催となりました。

現状、国内出願は30万件を下回る低迷な状態ですが、外国出願とりわけPCT出願は年々上昇しており企業の海外進出がこの点からも伺えます。ただしPCT出願件数多 ≠ 売上好調という図式になっておらず知財活用の難しさも浮き彫りになる結果もありました。ビジネスにどう貢献していくかは知財の永遠の課題だと改めて実感します。

PCT制度の最大の理由（価値）は『発明の価値を見極める時間』を得ることが出来る点にあることは疑いのない点なのですが、その見極めの目的の多様さには驚きでした。国際調査期間の見解による価値の見極め、事業の展開先による価値の見極めは大多数の方が頷くと思いますし、基礎研究の進展による価値の見極めも開発型企业の方ならば実施していることと思います。しかし、標準化作業の結果による価値の見極めとなると如何でしょうか。説明を受けて得心したのですが、正直それまでは自分の発想にはなかったものです。「意外と多い使い方です。」との高橋様の言ですが、その認識の差こそが世界で戦うことの本当の意味を知る者と知らない者の差であるよう感じられたのは自分だけなのでしょう。知財のグローバル化とは単に“PCT出願で世界各国に特許を出す”ということだけでなく、“世界で戦うためにPCT出願をどのように活用するのか”を指すものと今回の部会で学んだような気がしました。

その後の企業の立場、大学の立場でのPCT活用の紹介もあり、参加者はより実務に近い感触をえることができたのではないのでしょうか。

今年の干支は巳で、巳年は経済も活発になる年であるとのこと。新たな政権も発足したことですし、日本経済も浜松もこれまでの逆風を脱却して、元気な一年であるといいですね。

～IP部会委員代表～